

内

鹿角市出身の菅江真澄研究(一年)の生誕110年に合わせ
家・内田武志(1909〜80)を特別展示会が鹿角市十和田



内田や

休館中の能代市民プラザ

後継団体決定、来月再開へ

休館中のJR能代駅前の能代市民プラザ(能代市元町)を運営する後継団体が、市内のNPO法人「eナビステーションりあん」(越後康一理事長)に決まった。プロポーザル方式で公募していた同市が6日公表した。プラザは7月に再開する。

プラザは2008年12月、市中心部にぎわい創出を目指し、大栄百貨店1階の空きスペース(約260平方メートル)に開設。翌09年に発足した市

民有志でつくる能代まちづくり合同会社が運営していたが、市の第1期中心市街地活性化計画の終了に合わせ会社を解散。今年4月から休館している。

市中心市街地活性化室によると、5月下旬に審査を行い決定した。応募団体数は非公表。運営委託費は約939万円、期間は22年3月まで。7月内に契約する。

りあんは昨年、能代山本地域で地域づくりに関わる団体

ハチが真澄の日記や随筆文を書写した原稿などを展示。内田に真澄の研究を勧めたという日銀総裁の渋沢敬三(1896〜1963年)らとのつ

の代表ら約20人で発足。家族の困りごとの解決や移住定住、終活支援などに取り組む。越後理事長は「駅前という立地から、高齢者との接点を広げやすいと考え応募した。市民の憩いの場としてだけでなく、さまざまな活動の拠点にしたい」と話した。

能代まちづくり合同会社が運営し、市民プラザと同様に4月から閉店しているのしろ木工品市場は、後継団体をプロポーザル方式で公募したがまだ決まっていない。

(棟方幸人)

